





って、私たちの人生のあらゆる面において神を思い起こすことこそが、内面的平和を成すための道なのです。

この想起（ズィクル）とは、暗室の角に座って常に「アッラ、アッラ、アッラ」と唱えけるような、あるの人々が考えているようなものではありません。これは私たちが神を想起すべき方法ではないのです。そのようなことをする人物は、アッラの御名を口で言っはいますが、よく考えてみれば、もしかがあなた（名前をムハンマドとします）をれて「ムハンマド、ムハンマド、ムハンマド」と言いけたとすれば、あなたはこの人物をわった人物と思うでしょう。「彼は何かを欲しがっているのだろうか？」または「何かを必要としているのだろうか？」あるいは「それ以外に何も言わず、私の名を呼びける目的は何なのだろうか？」といぶかしげに思うはずです。

それは神を想起する方法ではありません。なぜなら言者はそういった方法で神を想起しませんでしたし、彼がそうしたというも存在しません。またあるの人々は、踊りや左右にれる作をり返すことにより神を想起するべきであると主します。言者はそのような方法で神を想起しておらず、またそういったもいのです。

言者は彼の人生において神を想起しました。彼の人生は神をえず念じた人生であり、祈りや生死における想起こそが本物の想起なのです。

まとめると、内面的平和の探求には、私たちの生活に存在するの、また私たちの障壁の、そしてそれらの障壁がされ、その内のどれに化をもたらすことが可能なのかという理解と、化させることの出来るもの、つまり自分自身にわるものにしての努力がしてきます。

私たちが自分自身をえて行けば、神は私たちの周りの世界をえ、周とうまくやっていけるを私たちにお与えになるのです。例え世界が波万丈であれ、神は内面的平和を私たちにお授けになるのです。

どんなことが起ころうが、それは神による定めやであり、それが究的には私たちのためにとって善いことであり、その背には英知が潜んでいるのです。神は私たちをこの

世界に造られ、それを天国に入るためのとされましたが、この世界のとは、私たち自身の精神的成長のためなのです。もしも私たちがこれらの事を全てし、心から神の存在を信じるのであれば、内面的平和を達成することが出来るはずでしょう。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/637>

著作権 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。